

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

豊能町長 上浦 登

市町村名 (市町村コード)	豊能町 (27321)
地域名 (地域内農業集落名)	高山 (高山)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年2月5日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

中山間地域であるが、トンゴではほ場整備済み(6.4ha)である。また、H31年には、地域の高齢化や担い手不足から、地域農業に関するアンケートを実施した。その結果、今後高山の農業を存続させていくには、法人の担い手に農地を集約していくことが大事となり、令和3年4月に北摂興業(株)を担い手とする、人・農地プランを策定した。現在、府営の農地中間管理機構関連農地整備事業を実施中である(9.2ha)。スゴ・コカベの棚田では、NPO法人やボランティアグループが活動している。また、同棚田では、条件の悪い農地が多く、遊休農地化していたが、解消しつつある。

また、ほ場整備後農地に、(株)富貴食研が農地借受を希望しており、有機農業を考えている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

農地中間管理機構関連農地整備事業にて行ったほ場整備後農地は、担い手である北摂興業(株)が中心となり水稻や高収益作物を中心に営農していき、整備後の一部の農地を(株)富貴食研が借受け、有機農業を行う。また、スゴ・コカベの棚田では、NPO法人やボランティアグループも活動しており、棚田の保全管理にも努めている。また、同棚田では、認定新規就農者が遊休農地を解消しながら、ブドウを作付けしている。それ以外の農地については、稲作を中心に作付けしていく。

また、地域での獣害対策にも国事業を活用しながら取り組んでいく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	31 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	19 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域内の農地のうち、地権者アンケートで回答が得られた農地とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構関連農地整備事業にて行ったほ場整備後農地は、北摂興業(株)と(株)富貴食研が担う。その他の農地については、地域内の担い手に農地の集積・集約を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針
担い手が決まっていない農地について、就農希望者が現れたときは、受け手未定の農地を積極的に紹介し、農地中間管理機構を活用し、農地の利用権設定を行っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現在、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、ほ場整備を行っている。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
地域内の担い手や就農希望があった際は、町やJA、大阪府北部農と緑の総合事務所(農の普及課)と連携して、育成を行う。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☒ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

鳥獣被害のひどいエリアで、鳥獣被害防止総合支援事業等を活用し柵等を設置する。①
 (株)富貴食研が有機農業を考えており、また、農業用施設の建設も検討している。②⑧
 (株)里山創生研究所が、ブドウを作付けしており、収穫したブドウからワインを醸造する。⑤